

「疑いを超え、近づいてくださる主イエス」 (マタイによる福音書 28 : 16-20)

今日の福音書は、ご復活後の主イエスと弟子たちが初めて会う場面です。弟子たちは約束の山で主イエスに会い、ひれ伏します。しかしその中には「疑う者」もいました。目の前にご復活の主イエスがいるにもかかわらず、疑う者がいたのです。その弟子の心に主イエスが気付かないはずがありません。しかし、主イエスはその疑う弟子にも近づき、語りかけ、宣教へと召し出します。この場面のなんと恵み溢れることでしょうか。主イエスは疑いも超えて、近づいてくださる。この主イエスの姿、行動には、神の思いが溢れ出ています。神はわたしたちが疑おうとも、決して見捨てず、近づいて、自らとの交わりに招き込んでくださるのです。今日の三位一体主日にこの箇所が読まれたことの意味が、ここにあるように感じます。世界を創造し、すべての命を「極めて良い」と宣言された神は、すべての命を祝福し、愛し抜いてくださいます。しかし、その神から、その愛から人間は離れてしまいます。その人間を神は何度もご自分の元へと連れ戻しますが、どうしても人は神から離れ、別の何かに頼り、さまようのです。それが旧約聖書に明らかにされている人間のリアルな姿です。しかしそれでも、神は人に近づいてくださいます。創造のはじめからわたしたちの命を祝福し、その命を見捨てない神は、なんとしてでもわたしたちにその愛を伝えるために、ついにわたしたちと同じ姿である御子をわたしたちの間に遣わしてくださるのです。あなたがたと同じ人であれば、あなたがたは分かるだろうと、その愛を「あなたとわたし」の距離にまで近づいて届けてくださるのです。そうまでして、すべての命を極めて良いと祝福し、愛してくださる。それが、御子の受肉によって示される神の愛です。そして先週の聖霊降臨日にお祝いしたように、主イエス昇天後は、聖霊がわたしたちにいつまでも伴い、導き続けてくださっています。三位一体なる神は、父なる神として、子なる神として、聖霊なる神として、つまりあらゆる手段でわたしたちに近づき、語りかけ、父と子と聖霊の交わりへとわたしたちを招いてくださるのです。わたしたちが疑うこと無く、立派な者であるから迎えられるのではありません。神が疑いをも超えて、近づいてくださるから、わたしたちは招き込まれるのです。今日の使徒書でのパウロの祝福、「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同とありますように。」は、わたしたちがいつも会合や礼拝の終わりに唱えるものです。神が近づいてくださり、わたしたちを父と子と聖霊の交わりのなかに招き込んでくださるからこそ、わたしたちは、主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の御導きの中に生かされます。三位一体主日、近づいてくださる神の祝福を全身に受け、招きをあらためて感じましょう。

報道等でご存知の通り、米国ミネソタ州ミネアポリスで、黒人男性ジョージ・フロイドさんが白人男性警察官から暴行を受け、亡くなられました。抗議はアメリカ全体に広がり、未だ収束する気配はありません。ホワイトハウス前にも沢山の人が押し寄せ、恐怖を感じたトランプ大統領は一時期地下に避難した、という報道もありました。余程の恐怖だったのか、トランプ大統領はそれから、軍による鎮圧をも辞さない姿勢を表明します。しかし、これには政権内部や軍内部からも異論が出され、さらには、この現実直面した人々は、これまでのトランプ大統領による政策・発言の数々が「人々を分断するものだ」と糾弾しています。そのような状況で、トランプ大統領はある行動に出ました。ホワイトハウス近くのアメリカ聖公会聖ヨハネ教会へ行き、その教会の前で聖書を持ち、写真撮影をし、公開したのです。自分が正義であることを、聖書と教会を利用してアピールしたのです。彼のこの写真を撮影するために、連邦公園警察などは、ホワイトハウス前の公園周辺で平和的に抗議していた人々を催涙ガスやゴム弾などで排除し、大統領が教会まで移動するための道を作りました。平和的に行動する人々を排除し、そして聖書と教会を利用したトランプ大統領。これにはアメリカ聖公会ワシントン教区のマリアン・ブッド主教をはじめ多くの聖職者も、聖書や教会を「小道具」に使ったと強く反発しています。マイケル・カーリー米国聖公会総裁主教は、トランプ大統領の行為について、「彼の行動はわたしたちを助けたり、

わたしたちを癒したりするものではありませんでした。」と言い、さらにこう続けました。「聖書は「神は愛である」と教えています。ナザレのイエスは、「あなたはあなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」と教えています。預言者ミカは、主はわたしたちに「正義を行い、憐れみを愛し、わたしたちの神と謙虚に歩むこと」を求めていると教えました。大統領が掲げた聖書と彼が前に立った教会は、愛、正義、思いやり、そしてわたしたちの傷を癒すための方法をも表すものです。」このマイケル・カリー総裁主教の言葉はとても重たいものです。聖書と教会が表すものは、愛、正義、思いやりです。このことに立ち返るなら、トランプ大統領の行動は批判されなければならないと思います。しかしこの出来事を目撃しつつ、わたしは自らを顧みなければならぬと強く感じています。聖書には、聖書（律法）を利用する人、神殿を食物にする人間の姿が繰り返し記されています。そこに明らかにされているように、人間は神をも自らのために利用してしまう存在です。そうまでして、自らを正義としなければ生きられないのです。神はすべての命を「極めて良い」と言われました。しかし、人間は「白人の方が優れている」「有色人種は…」などと、「人種」という概念を作り出し、他の「人種」を蔑むことで、自分の優位を主張するようになりました。人間は他者の命を蔑ろにしても自らを誇らなければ自尊心を保つことができない、生きられない生き物だということです。また、わたしたちは、「あれができない」「これができない」とダメ印ばかり押し合い、いつの間にか自分に価値がないかのように感じてしまいます。そもそも神は、すべての命を存在しているだけで「極めて良い」と祝福してくださっているのに、人間は自らの価値を見失い、評価や祝福を獲得しなければ、と一生懸命になってしまいます。そして、それを獲得するために、他者を低くし、自らを高く上げようとします。そこに、疑いや、不信、分断、というものが生まれます。このような人間の姿はトランプ大統領だけのことではありません。アメリカだけのことではありません。わたしたちのことに他なりません。ならばあらためて、わたしたちは今日、愛、正義、思いやりの神に立ち返らなければなりません。あなたの命は「極めて良い」と神は祝福し、どんなに人が神を疑い、離れても、神の方から近づき、愛し抜いてくださいます。疑う弟子に近づく主イエスの姿を想像しましょう。疑いは分断を生みます。疑心暗鬼になると、人は隣人を遠ざけます。しかし、互いを遠ざけてしまえば、人は愛からも、正義からも、思いやりからも離れてしまいます。だからこそ主イエスは、疑いを超えて近づいてくださるのです。

そして、主イエスは弟子たちに言いました。いわゆる大宣教命令と言われる言葉です。「すべての民をわたしの弟子にしなさい。父と子と聖霊の名によって洗礼を受けなさい。」これはどういうことでしょうか。それは、父と子と聖霊の愛の交わりに、全てこの世に生きる命を、愛が満ち満ちている三位一体の神の交わりに招き込みなさい、ということです。疑いや分断の中にある人、抑圧されている人、自らの価値を見いだせずにいる人、そのすべての命の元へ、主イエスのように近づいていきなさい、ということです。疑う弟子たちもそこにはいました。しかし、その疑いをも携えて、分断ではなく、近づきなさいと主イエスは命じられたのです。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と言われる主イエスは、どんなときもわたしたちに近づき、共にいてくださいます。その主イエスがいつも共にいてくださるから、今疑う人も、その派遣される先で、その働きの中で、信じるものへと変えられます。

わたしたちは、父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、父子聖霊の交わりへと既に迎えられています。その交わりへと全ての人を招きなさい、と主イエスは命じました。今日、その命令をあらためて受け、派遣されていきましょう。たとえ疑うことがあろうとも、主イエスはわたしたちを召き、その働きの中で、信仰へと導いてくださいます。離れるのではなく、近づくこと。父と子と聖霊の三位一体なる神の交わりの中に招き込まれ、生かされていきましょう。